各 位

2025年3月25日

会 社 名 株式会社モンスターラボホールディングス
代表者名 代表取締役社長 鮎川 宏樹
(コード：5255、グロース市場)
問合せ先 CFO 鈴木 澄人
(TEL. 03-4455-7243)

「第19期定時株主総会招集ご通知」の一部訂正について

当社「第19期定時株主総会招集ご通知」について、一部訂正すべき事項がありましたので、ここにお詫び申し上げますとともに、下記のとおり記載内容を訂正させていただきます。

記

1. 訂正箇所

「第19期定時株主総会招集ご通知」13頁、15頁、17頁
株主総会参考書類 第1号議案 定款一部変更の件

2. 訂正内容

訂正内容は、以下のとおりであります。なお、訂正箇所には網掛けを付して表示しております。

【訂正前】

2. 変更の内容

現 行 定 款	変 更 案
(新 設)	<u>第2章の2 A種種類株式</u> (剰余金の配当)
(新 設)	<u>第10条の2 (A種優先配当金)</u> <u>3 (参加条項)</u> 当社がA種種類株主等に対して、A種優先配当金及びA種累積未払配当金相当額(本条第4項に定める。)を配当した後、普通株主等(本条第11条の9第1項に定める。)に対して剰余金の配当を行うときは、同時に、A種種類株主等に対して、A種種類株式1株につき、それぞれ、普通株式1株当たりの剰余金の配当額と同額の剰余金の配当を行う。

4 (累積条項)

ある事業年度においてA種種類株主等に対して行われた1株当たりの剰余金の配当（当該配当に係る配当基準日が属する事業年度より前の各事業年度に係るA種優先配当金につき本項に従い累積したA種累積未払配当金相当額（以下に定義される。）の配当を除く。）の総額が、当該事業年度に係るA種優先配当金の額に達しないときは、その不足額は、当該事業年度の翌事業年度の初日（同日を含む。）以降、実際に支払われる日（同日を含む。）まで、同事業年度に係る本条第2項に定める配当年率で単利計算により累積する。本項に従い累積する金額（以下「A種累積未払配当金相当額」という。）については、第11条の9第1項に定める支払順位に従い、A種種類株主等に対して配当する。なお、かかる配当が行われるA種累積未払配当金相当額に、各A種種類株主等が権利を有するA種種類株式の数を乗じた金額に1円未満の端数が生じるときは、当該端数は切り捨てる。

(普通株式を対価とする取得請求権)

第10条の5 (普通株式対価取得請求権)

2 (A種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の数)

A種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の数は、(i)A種種類株式1株当たりの払込金額相当額、(ii)A種累積未払配当金相当額及び(iii)A種日割未払優先配当金額の合計額を、本条第3項及び第4項で定める取得価額で除して得られる数とする。なお、本項の計算において、A種累積未払配当金相当額及びA種日割未払優先配当金額の計算は第11条の3第1項及び第3項に準じて行われるものとし、A種累積未払配当金相当額及びA種日割未払優先配当金額の計算における「残余財産の分配が行われる日」及び「分配日」を「普通株式対価取得請求日」と読み替えて、A種累積未払配当金相当額及びA種日割未払優先配当金額を計算する。また、普通株式対価取得請求に係るA種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の合計数に1株に満たない端数があるときは、これを切り捨てるものとし、この場合においては、会社法第167条第3項に定める金銭の交付は行わない。

(新 設)

附 則

(新 設)

(商号及び目的に関する経過措置)

第4条 現行定款第2条（目的）の変更は、第19期定時株主総会に付議される第9号議案「モンスターラボ社との合併契約承認の件」が原案どおり承認可決され、当該合併の効力が発生することを条件としてその効力を生ずるものとし、本条は2025年4月1日をもってこれを削除する。

【訂正後】

2. 変更の内容

現 行 定 款	変 更 案
<p>(新 設)</p>	<p>第2章の2 A種種類株式 <u>(剰余金の配当)</u> <u>第10条の2 (A種優先配当金)</u> <u>3 (参加条項)</u> 当会社がA種種類株主等に対して、A種優先配当金及びA種累積未払配当金相当額（本条第4項に定める。）を配当した後、普通株主等（第10条の9第1項に定める。）に対して剰余金の配当を行うときは、同時に、A種種類株主等に対して、A種種類株式1株につき、それぞれ、普通株式1株当たりの剰余金の配当額と同額の剰余金の配当を行う。 <u>4 (累積条項)</u> ある事業年度においてA種種類株主等に対して行われた1株当たりの剰余金の配当（当該配当に係る配当基準日が属する事業年度より前の各事業年度に係るA種優先配当金につき本項に従い累積したA種累積未払配当金相当額（以下に定義される。）の配当を除く。）の総額が、当該事業年度に係るA種優先配当金の額に達しないときは、その不足額は、当該事業年度の翌事業年度の初日（同日を含む。）以降、実際に支払われる日（同日を含む。）まで、同事業年度に係る本条第2項に定める配当年率で単利計算により累積する。本項に従い累積する金額（以下「A種累積未払配当金相当額」という。）については、第10条の9第1項に定める支払順位に従い、A種種類株主等に対して配当する。なお、かかる配当が行われるA種累積未払配当金相当額に、各A種種類株主等が権利を有するA種種類株式の数を乗じた金額に1円未満の端数が生じるときは、当該端数は切り捨てる。 <u>(普通株式を対価とする取得請求権)</u> <u>第10条の5 (普通株式対価取得請求権)</u> <u>2 (A種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の数)</u></p>

A種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の数は、(i)A種種類株式1株当たりの払込金額相当額、(ii)A種累積未払配当金相当額及び(iii)A種日割未払優先配当金額の合計額を、本条第3項及び第4項で定める取得価額で除して得られる数とする。なお、本項の計算において、A種累積未払配当金相当額及びA種日割未払優先配当金額の計算は第10条の3第1項及び第3項に準じて行われるものとし、A種累積未払配当金相当額及びA種日割未払優先配当金額の計算における「残余財産の分配が行われる日」及び「分配日」を「普通株式対価取得請求日」と読み替えて、A種累積未払配当金相当額及びA種日割未払優先配当金額を計算する。また、普通株式対価取得請求に係るA種種類株式の取得と引換えに交付する普通株式の合計数に1株に満たない端数があるときは、これを切り捨てるものとし、この場合においては、会社法第167条第3項に定める金銭の交付は行わない。

(新 設)

附 則

(新 設)

(商号及び目的に関する経過措置)

第4条 現行定款第2条(目的)の変更は、第19期定時株主総会に付議される第9号議案「モンスターラボ社との合併契約承認の件」が原案どおり承認可決され、当該合併の効力が発生することを条件としてその効力を生ずるものとし、本条は2025年10月1日をもってこれを削除する。

以上